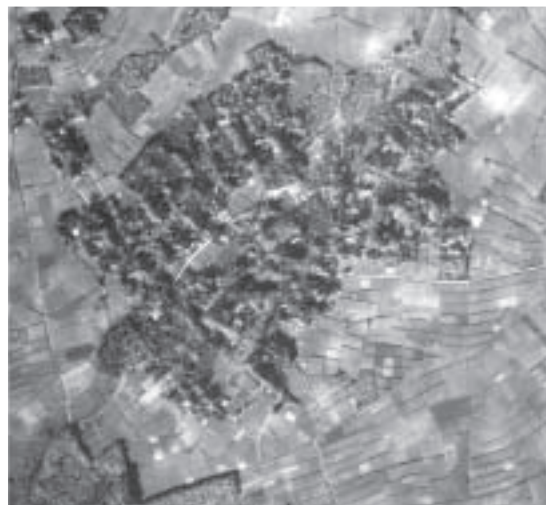


特集 旧柳窪村

旧柳窪村は、江戸時代に開発された村で、寛文十年(1670)に幕府領(天領)となりました。東は下里村、南は柳窪新田と大沼田新田(現小平市)、西は入間郡大岱村(現東村山市)に接し、江戸時代の文献や石造物には柳窪や柳久保と表記されています。現在の住居表示では柳窪一丁目~五丁目を中心に、下里四丁目の一部が含まれます。地形的には黒目川の源流部にあたり、村の西端には幻の湧水「さいかち窪(久保)」があります。村内を流れる黒目川の流域には、現在も江戸から明治時代にかけての家屋と屋敷林がみられるほか、寺社や石仏・石碑などの文化財が点在し、江戸時代の武蔵野の村落を偲ばせる貴重な景観が今に残されています。この地域は、東京都の緑地環境保全地域、東京都雑木林のみち(屋敷林のみち)コース、東京の名湧水57選にもなっています。



柳窪村の江戸時代、文政十年(1827)の家数は38軒、人口は222人。石高(米に換算した生産高)は102石。明治5年(1872)の家数は42軒、人口253人でした。明治5年から神奈川県に編入され、11年に同北多摩郡、22年(1889)に柳窪村など8村によって久留米村が成立しました。26年(1893)に東京府に編入し、昭和18年(1943)に東京都となりました。

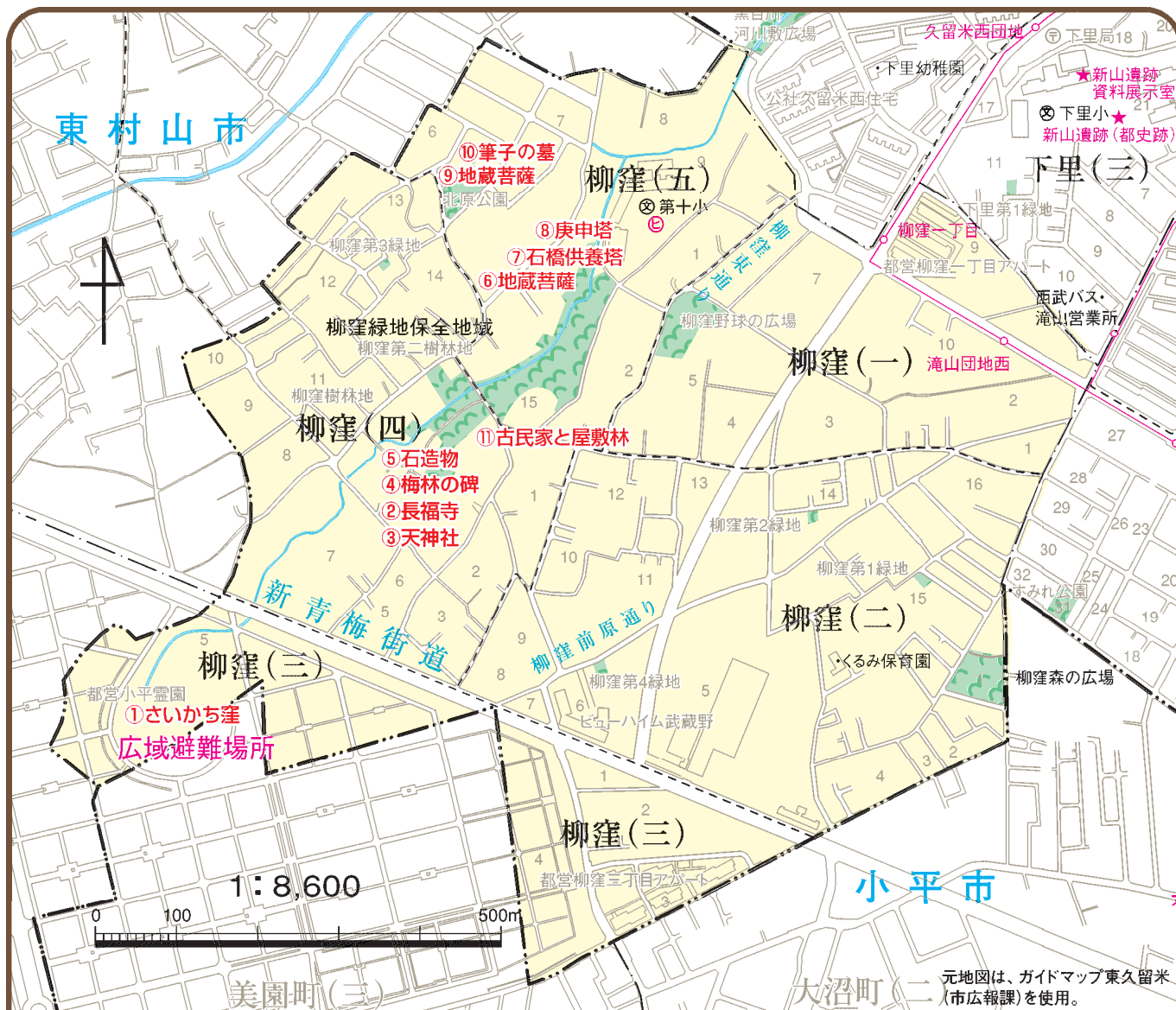


明治時代地引絵図の柳窪(上)

この地図は明治6年の「地租改正」によって作成された初めての近代測量図です。未完成ですが土地の利用形態がよく分かります。原図は約600分の1。茶に屋根印が屋敷地、緑が林、薄茶が畑です。市指定有形文化財。

昭和22年の柳窪(下)

極東米軍が撮影した航空写真(部分)
(国土地理院空中写真R556-No.1-93)



元地図は、ガイドマップ東久留米(市広報課)を使用。

柳窪歴史 散歩マップ

- ① さいかち窪
- ② 長福寺
- ③ 天神社
- ④ 梅林の碑
- ⑤ 石造物
- ⑥ 地蔵菩薩
- ⑦ 石橋供養塔
- ⑧ 庚申塔
- ⑨ 地蔵菩薩
- ⑩ 筆子の墓
- ⑪ 古民家と屋敷林



① さいかち窪

柳窪三丁目5

昔、さいかちの木が何本も生えていたのでそう呼ばれています。黒目川の源流で、雨の多いときは湧水がみられます。

②③ 長福寺と天神社

柳窪四丁目15-16

黒目川と樹林に囲まれて長福寺と天神社がひっそりとたたずんでいます。



屋敷林と民家

柳窪には、江戸時代から明治にかけての古民家が
多く残っています。萱葺き民家は江戸時代後期の
ものが1軒です。明治初期に建てられた民家も多
く、外観は屋根などが改築されているものの、な
かに入ると当時の太い柱や梁は健在で、どっしり
とした時代の重みを感じさせてくれます。

式台 後で付けられたとおもわれる



どま



主屋

薬医門



⑪ 萱葺きの民家

柳窪四丁目15（村野家）

市内に残る唯一の萱葺き民家。天保九年(1838)に四ツ間型で建てられ、安政四年(1857)に六ツ間型に改築されています。この時に小屋組みも改め、小屋裏は養蚕に利用できるように高くなっています。高い屋敷林に囲まれ、南側には慶応年間に造られた「薬医門」があります。

※個人の住宅なので普段見学することはできません。



柳瀬荘の黄林閣 所沢市大字坂の下

もと柳窪にあった名主宅で、昭和5年に現在地へ移築されました。天保十五年(1858)に建てられ、桁行13間の九ツ間型という大きな民家です。現在は東京国立博物館が所有・管理し、毎週木曜日に公開されています。国指定重要文化財。同じ場所に文政三年(1820)建造の長屋門も移築されています。

④ 天神社の「梅林の碑」

近江の国の松真陽という人が、古い祠の傍らあった「天神松」という老木の朽ちるのを惜しみ、村人と協力して、そこに梅の植樹をしたことが記された石碑です。碑文は、安政四年（1857）に六所宮神主（現大國魂神社宮司）の猿渡盛章によるもので、梅林の移植と「くるめ」とを巧みに組みあわせて、この地を「来梅ノ荘の里」、さらに黒目川を「来梅川」と呼んでいます。また、裏面には梅沢敬典の流麗な筆による菅原道真と伝えられる歌が刻まれています。市指定史跡



⑥～⑧ 地蔵菩薩・石橋供養塔・庚申塔

柳窪四丁目14

左から地蔵菩薩（年代不詳）、明和六年（1769）の石橋供養塔（念仏講中）、明和元年（1764）の庚申塔で、石橋供養塔には「武州多摩郡柳久保村」と彫られています。市指定有形民俗文化財



⑨ 地蔵菩薩

柳窪五丁目6墓地内

市内で二番目に古い地蔵菩薩で、宝永三年（1706）の造立。右側に年号、左側に「武叡多摩郡柳久保村」と刻まれています。市指定有形民俗文化財



⑩ 筆子の墓

安永四年（1775）に建てられた筆子の墓。ここにあった堂で子供たちに読み書きを教えたお坊さんを偲んで作った墓です。



柳窪囃子

古谷重松という人が江戸の祭囃子を参考にして独自の旋律を考案・編曲したものです（重松流）。柳窪天神社の春祭（4月25日）と秋祭（9月25日）に奉納されます。市指定無形民俗文化財



柳久保小麦

柳窪在住の奥住又右エ門さんが嘉永三年（1850）に作り出した新種の小麦種で、太くて長いので萱葺き屋根の材料として多く使われました。昭和10年代に作付けが中止されましたが、近年子孫の方の努力によって復活し、柳久保小麦としてうどんなどに使われ、東久留米ブランドとなっています。



発行 東久留米市教育委員会生涯学習課

〒203-8555 東京都東久留米市本町3-3-1

電話0424-70-7777（内線3213）